

〔古典紹介〕 松本歯学 26 : 146~150, 2000

key words : 今 裕・花澤 鼎 - 病理組織写真 - 図譜

今・花澤：病理組織写真図譜について とくに初版と再版との書誌学的比較

矢ヶ崎 康

松本歯科大学 創立者・名誉教授

川上敏行, 枝 重夫

松本歯科大学 総合歯科医学研究所 顎・口腔形態機能研究部門

A Comparative Bibliography on the First and Second Editions of
"Kon and Hanazawa : Microphotographical Atlas of Pathologic Histology"

YASUSHI YAGASAKI

The Founder and Honorary Professor of Matsumoto Dental University

TOSHIYUKI KAWAKAMI and SHIGEO EDA

Division of Oral and Maxillofacial Biology, Institute for Dental Science, Matsumoto Dental University

Summary

The book "Microphotographical Atlas of Pathologic Histology" was published in 1910. The author is Dr. Yutaka Kon, Professor of Hokkaido Imperial University, but all microphotographs of diseases were taken by Dr. Kanae Hanazawa, Assistant Professor of Tokyo Dental College.

This book is the first atlas consisting of original microphotographs in Japan. The second edition of the book appeared in 1923 ; however, the binding is very simple compared with the first edition, which is in a superb binding.

病理組織写真図譜

東京歯科大学病理学教室の初代主任教授 花澤 鼎博士 (図1) には数多くの業績があり, 単著ないし共著の論文は50篇を算え, 単行書は再版ないし改訂版を除いても14冊ほどある (花澤 鼎彰功会, 1951¹⁾; 森山他, 1990²⁾). その主体は“歯

科病理学”に関するものであるが, 歯科組織学や歯科理工学なども含まれている. 今回ここに紹介するのは, 病理学の中でも“一般病理学 (General Pathology)”の顕微鏡写真から成る“病理組織写真図譜”である. これは北海道帝国大学医学部病理学教授 今 裕の著作であるが, 顕微鏡写真は東京歯科医学専門学校講師 花澤 鼎が全てを撮影



図1：花澤 鼎 博士のプロフィール
(北村勝衛元学長のアルバムより)

た今教授が、その技術を認めて花澤に顕微鏡写真の撮影を依頼したものである(初版の序言)。従来は絵や外国の書物からの転用が普通だったので、全身疾患の病理組織写真図譜としては、日本では嚆矢であり特筆すべきである。総105頁、ちょうど100図から成っている。印刷は当時一般的だった石版刷や木版刷ではなく“コロタイプ版”なので、きわめて鮮明である。口腔病変はわずかに4図で、それは第35図耳下腺混合腫瘍、第49図舌表皮癌、第59図アダマンチノーム(歯芽腫、図4)、第68図扁桃腺^{ジフテリ}実扶帝里である。アダマンチノームは現在エナメル上皮腫(Ameloblastoma)と呼ばれているもので、筆者等が学生の頃は“瑛瑯上皮腫”と言っていた。口腔以外の疾患の1例として第95図の骨軟化症を示す(図5)。これには“ボムメル氏鍍銀法”と記されているが、これは組織化学的カルシウム検出の“事始め”とも言えるものである。すなわち「脱灰セザル切片ヲ硝酸銀液ニ浸シタルマ、日光ニ直射セシメ石灰顆粒黒染スルニ至リテ止ム」という説明がある。カルシウムの組織化学的証明には数多くの方法があり、硝酸銀を使用したものに限っても、von Kossa法(1901)、Salge et Steeltznel法(1905)、Gohs法(1928)、Lillie法(1928)、Gomori法(1932)、Bloom and Bloom法(1940)、McLean and Bloom法(1940)が知られ(岡本他, 1965³⁾；

したものである。初版は1910年(明治43年)10月5日に南山堂書店から出版されている(図2 a, b, 図3 a)。これはその年の3月31日に発刊された日本で最初の歯科病理学の顕微鏡写真集である“花澤 鼎：歯科病理解剖学図説 第一綴”を見

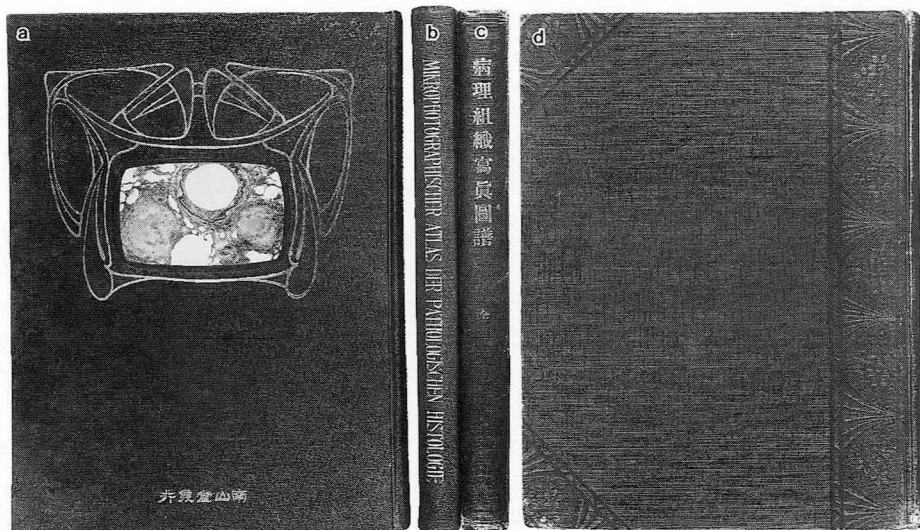


図2：今・花澤：病理組織写真図譜 南山堂書店
 a：初版表紙 b：初版背表紙 c：再版背表紙 d：再版表紙

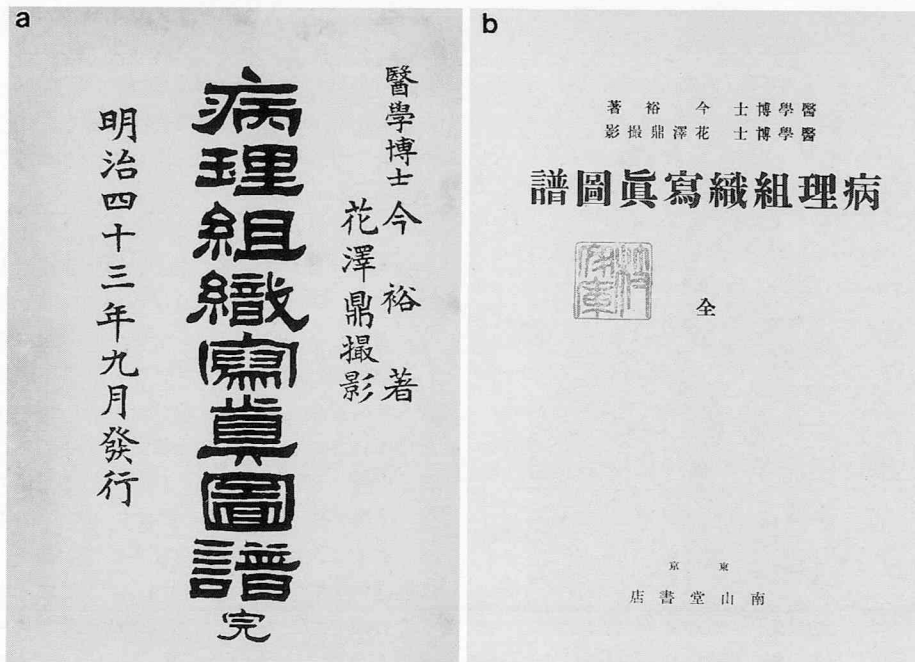


図3：今・花澤：病理組織写真図譜 a：初版扉 b：再版扉

佐野 豊, 1965⁴⁾), 現在では von Kossa 法がよく用いられている。しかしポムメル法についての記載は発見できなかった。日光に当てるところなどは von Kossa 法に類似している。

今 裕はその後1915年(大正4年)には東京歯科医学専門学校教授となり、病理学総論を講義している。また同時に花澤 鼎も同校の教授に就任した。後者は同年の学則改正によって教授という職籍ができたからで、それまでは教師全員が講師という肩書きであった(石川他, 1995⁵⁾)。

初版と再版との比較

本書の再版は13年後の1923年(大正12年)8月15日に初版と同じく南山堂書店から発行された(図2 c, d, 図3 b)。これら両者を比較すると、図版とその説明は全く同じなのに、装丁には以下のように大きな差異が認められた。

1. 表紙は、初版では古いテレビ画面のような形の顕微鏡写真(本文中には同一の写真はない)があり、それを金箔の曲線模様が取り囲んでいて、下方には南山堂書店の箔押しがある(図2 a)。しかし再版ではそれらは皆無で、わずかに凹凸の模様がある(図2 d)。

2. 背文字は、初版では“MIKROPHOTOGRAPHISCHER ATLAS DER PATHOLOGISCHEN HISTOLOGIE”とドイツ語で記されているのに(図2 b)、再版では“病理組織写真図譜”と日本語になっている(図2 c)。ちなみに本報の英文表題はこの独文書名を忠実に英訳したものである。

3. 扉では、初版は縦の筆書きで“完”となっていて発行年月日が記されているが(図3 a)、再版では横書きの印刷文字(明朝体、右から左へ)で、“全”に変わり、発行年月が削除になって発行所名が追加された(図3 b)。

4. 再版では花澤 鼎に医学博士が追記されている(図3 b)。彼は本書が発行される約2か月前の6月7日に歯科医師では日本で最初のとなる医学博士の学位を慶應義塾大学から受領したのである。従って医学博士の肩書が付いた彼の著書としては本書が初めてとなる。

5. 初版は天金なのに再版では表紙と同じような青色である。

6. 初版には2頁の“序言”があり、さらに4頁の目次が付いているのに、再版にはこれらが欠落している。

表十三第

圖九十五第



図4：第59図 アダマンチノーム（歯芽腫）*Adamantinom*

表八十四第

圖五十九第

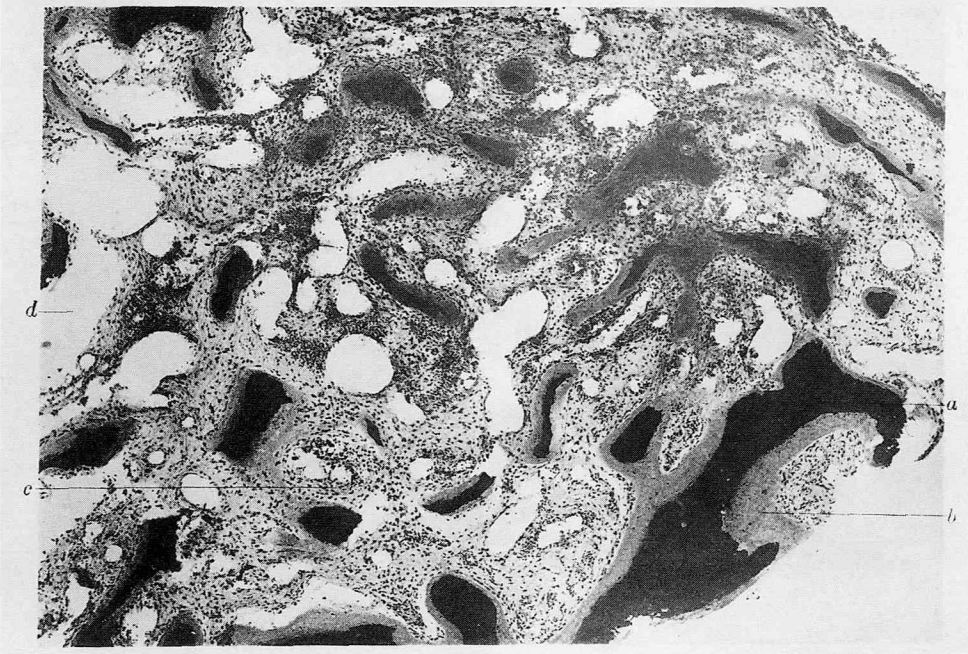


図5：第95図 骨軟化症（脊椎骨）*Osteomalacie*
石灰化している骨組織は黒く染まり（a）、未石灰化骨基質は広く、黒染されない（b）、

7. 初版には各図版（本書では“表”となっている）に薄い“掛紙”が付いているが、再版にはない。

以上を要するに、初版の装丁は非常に豪華なのに、再版では簡略化されていると言うことができる。

考察と結語

森山ら (1990)²⁾の報告には、表1に初版の紹介はあるものの再版は記されていない。その脚注に“(歯科病理学の) 大正時代の書物は明治期のものと関連あるものみに止めた。”とあるが、本書の初版は明治43年に出版されたのだから当然その再版も紹介されるべきものである。その記載がないということは東京歯科大学図書館には再版は所蔵されていないことを意味しているのではないかと考えられる。それにしても何故に再版では序言や目次を削除し装丁を大きく変更したのか不思議なことである。本書は初版、再版とも現在では稀覯本で、医学古書店などで見かけることは全

くないが、日本で最初のしかもオリジナル病理組織写真図譜として重要である。なお前者（初版）および冒頭に記した“花澤：歯科病理解剖図説第一綴”は、共に東京府知事賞および文部大臣賞を受賞している（石川他, 1995⁵⁾）。

末筆ながら本書の初版を恵与された昭和大学歯学部名誉教授 東 昇平博士に深謝する。

参考文献

- 1) 花澤 鼎博士彰功会 (1951) Collection of Summaries of the Works of Dr. Kanae Hanazawa, 1-155, 同会, 東京歯科大学, 東京.
- 2) 森山徳長, 塩津二郎, 石川達也, 長谷川正康 (1990) 明治期歯科病理学書の比較書誌学的研究. 日本歯科医史学会会誌 17(1): 64-70.
- 3) 岡本耕造他 (1965) 顕微鏡的組織化学. 65-75. 医学書院, 東京.
- 4) 佐野 豊 (1965) 組織学研究法. 616-22. 南山堂, 東京.
- 5) 石川達也他 (編) (1991) 東京歯科大学百年史, 1-772. 東京歯科大学, 千葉.